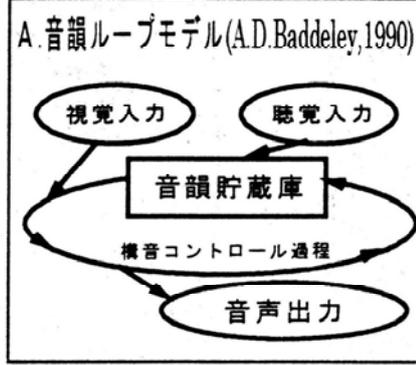


研究雑話 (72)

人間発達の物質的基礎 (三六) .. 論議 (七)、作業記憶は韻律にのせて、自閉症児の音韻ループ

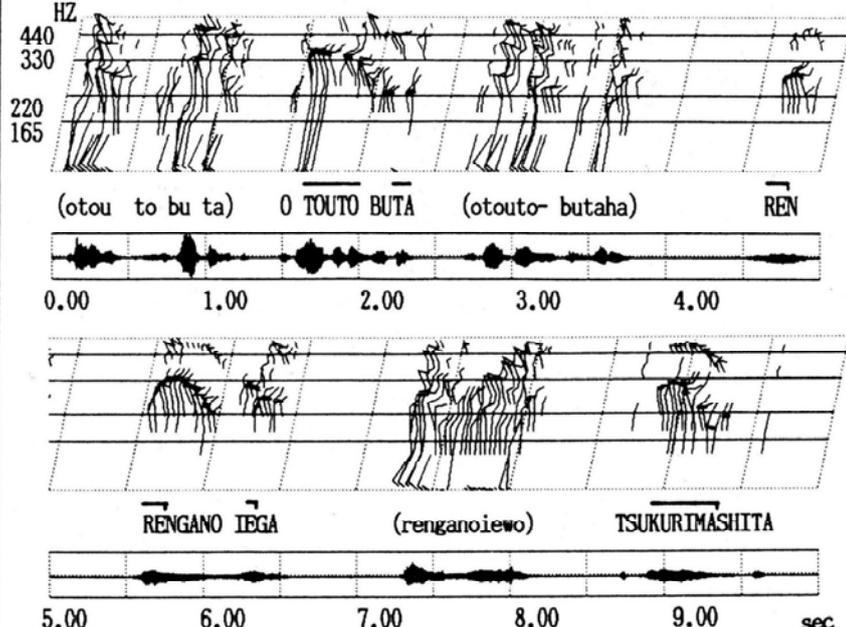
藤井力夫

前回は、作業記憶における空間的なものと文脈的なものとの統一についてお話ししました。描画でのそれは、形式的なものと心を含めたものに対応します。Rくんの描画では、玉入れ・かごや人物・胴体への四角が、形式的な側面を強め、展開を止めてしまったと判断されます。不安定への挑戦が課題と言えましょう。事実、Rくんは、大きい円や小さい円は描けますが、だんだん大きくなる変化を求めると混乱してしまいます。非対称への脱出には、ある種の韻律が要求されます。自閉症児が苦手とするところです。今回は、Rくんを例に、韻律生成の特徴についてお話ししたい。

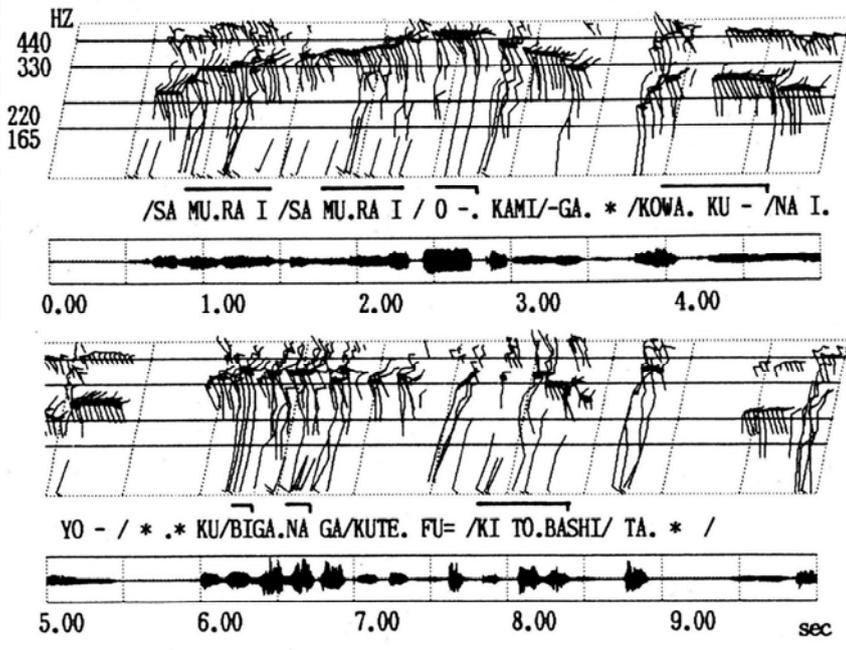


図Aは、作業記憶を呼び出す音韻ループの模式図 (バッドレイ)。予備庫からの文生成の回路でもあります。聴覚的なものはそのまま、視覚的なものは発声を通じ音韻ストアに貯蔵されます。拍飾リズムの韻律にのれば、貯蔵も取り出しもスムーズです。逆に、韻律にのらなければ、視覚的なものが強調されたり、聴覚的に敏感になったり、反響言語であったりします。

B-1. Rくんの対話的叙述 (「三びきの子ぶた」、8歳1ヶ月、前掲、( )内は大人)



B-2. 「三びきの子ぶた」再生話終了後のRくんの音韻的作業記憶 (リハーサル)



図Bは、Rくんの韻律 (スペクトル包絡図譜)。1は「三びきの子ぶた」での私との対話的韻律。2は、絵本・終了直後、Rくんが口ずさんだ韻律。まさに音韻ループの作業記憶。音高・ミとラに譜線。ことばにアクセントを付記。1、ノオトウトクタノ (私・おとうとぶたが) /レンガノイエ (レンガのいえを) /ツクリマシタノ。私の助詞を入れた反復的な支えに対し、反響せず、次のこ

とばを引き出しています。音高もラではじまり、ラで終わっています。2、Rくんが呼び起こした最初のことばは、ノサムライノ。狼に対抗できる強い人。テレビでみたサムライ。これがまず賦活。彼の頭の中を見る思いです。その後、ノオオカミガノ。ノなんかノと言うべきところ、私との対話時の支え・助詞ノガノが賦活。ノコワクナイヨノと続く。ノクビガナガクテノフキトバシタノも、首が長く描かれた狼の場面への想起。おそらく静止画のように脳裏に賦活したのでしょう。音高は、次へと急ぐ気持ちが続感で、尻上がり。続けるには苦しい韻律です。(北海道教育大学教授)